

## \*01.せいじ

- 1 倒木は倒木のまま山眠る
- 2 自家野菜盛る翫蓋枯木宿
- 3 春浅し馬場やや重とアナウンス
- 4 ランタンとせる竹筒に花の屑
- 5 墨痕のみことば涼しミニチャペル
- 6 礼拝の前の静寂蟬しぐれ
- 7 秋晴や運転免許返納す
- 8 ちびつ子のドンマイの声秋澄める
- 9 秋灯下更の聖書に線を引く
- 10 峠の道落葉時雨となりにけり

## \*02.ぽんこ

- 1 千体地蔵お顔それぞれ冬帽子
- 2 恙なく無口な夫となずな粥
- 3 テニスボール探す足許犬ふぐり
- 4 鐘一打余韻嫋嫋山笑ふ
- 5 寿老神光背のごと緋のつづじ
- 6 神在す村の要の楠若葉
- 7 梅干の天地返しや笊の中
- 8 観音の御手に触れもす秋の風
- 9 稔り田に山影落とす能勢街道
- 10 水鳥の助走の長き水しぶき

## \*03.こすもす

- 1 黒豆の艶上々や年用意
- 2 地蔵堂香煙絶へぬ小春かな
- 3 バイバイをして幼子の雛納め
- 4 よだれ掛け涼し双子のお食ひ初め
- 5 吸物に菜の花浮かせお朔日
- 6 巡り来る花時夫の忌なりけり
- 7 すれすれに舟傾かせ箱目がね
- 8 畦道に春耕の土匂ひけり
- 9 いにしへの古戦場あと鳴猛る
- 10 開け放つ土間に車座新酒酌む

## \*04.満天

- 1 切干の反りはじめたる冬日向
- 2 朱の椀に七種粥のみどり濃し
- 3 涅槃図に座して嘆きの声聞かむ
- 4 金閣寺白変したる春の雪
- 5 ベビーカー双児の寝顔聖五月
- 6 南座へ裾さばき美し白日傘
- 7 暑気払泡こまやかに抹茶点て
- 8 月光に濡れてうつくし大璧
- 9 鶴鶴のタクトに瀬音高鳴りぬ
- 10 コロナ禍のお洒落なマスク文化の日

## \*05.素秀

- 1 白囲む男衆餅の湯気の中
- 2 初染や藍竈に聞く泡の声
- 3 白杖の足を止めたる夜の梅
- 4 石仏の日あたる肩に青蜥蜴
- 5 遠山の透けてみどりの金魚玉
- 6 乳牛の乳房張りたる大夏野
- 7 異国へと尾灯瞬く星月夜
- 8 月光にくびれ深まる観音像
- 9 少年の右手高々と海螺廻し
- 10 丸き背に北風いなす川渡し

## \*06.潤道

- 1 カレンダーニつ並びて師走来る
- 2 合掌と合図の銳声寒修行
- 3 声揃ふ作努の白息永平寺
- 4 湯気立てて水足すだけの一日かな
- 5 マグマ噴くことを忘れて山眠る
- 6 スイッチの紐つぎ足して炬燵守る
- 7 熟し柿落下するのに迷ひ無し
- 8 冬帽の色で呼ばれる立飲屋
- 9 跳ね出しひは踏まれてしまふ鰯漁
- 10 しんがりとなりて吟行秋山路

## \*07.智恵子

- 1 竹林に華やぐ野点秋日和
- 2 故郷に帰る家なし零余子飯
- 3 野仏を囲みて風の千草かな
- 4 藪椿天蓋なせる磨崖仏
- 5 観覧車桜吹雪の高みへと
- 6 水遊びおむつ一つで恵比寿顔
- 7 雛祭り母を偲びて手まり寿司
- 8 稲妻の四囲に轟くゲリラ雨
- 9 芽柳のつづく水面に稚魚遊ぶ
- 10 漁火に踊る鵜匠の影法師

## \*08.宏虎

- 1 トロ箱にふくれつ面の河豚糾らる
- 2 鰯起こし闇に轟く旅枕
- 3 立葵谷戸に明治の木の校舎
- 4 宿下駄の弱き鼻緒や虫狩
- 5 浜木綿や一湾望む遭難碑
- 6 魚河岸に高知弁飛ぶ初鰹
- 7 就中女鵜匠の凜凜しかり
- 8 身構へし守宮の喉の息遺ひ
- 9 弁慶の男泣きする菊人形
- 10 一村の眠りに落ちて星冴ゆる

## \*09.かかし

- 1 園児らの太鼓一打にどんど焼
- 2 日溜りに押しくら饅頭寒雀
- 3 花吹雪鍬休めをる老夫婦
- 4 箸使ふこともりハビリ五月来ぬ
- 5 渋団扇火入れ祝詞の登り窯
- 6 渡月橋日傘を肩にモデル娘
- 7 男衆の野菜乱切り芋煮会
- 8 名月や一駅前でバス降りる
- 9 杉玉を吊し新酒の試飲会
- 10 千枚田天地返しに落葉鋤く

## \*10.たか子

- 1 裸木に輪廻の芽吹きしかとあり
- 2 梅東風の日に集ひけり祝膳
- 3 パドックへ騎手の一礼草青む
- 4 花散らす程にはならず小糠雨
- 5 はしやぐ火を叩いて叱る野焼きかな
- 6 児等去りて音の調ふ夏の川
- 7 心太茶屋の縁の透けてをり
- 8 刃を噛んでにつちもさつちも栗南瓜
- 9 鰐口を打てば余韻の音さやか
- 10 洞門の手鑿の痕やそぞろ寒む

## \*11.凡士

- 1 晩夏光試合終へたる球児の背
- 2 馬鈴薯の花を過ぎればオホーツク
- 3 百余年絶へぬてふ水新豆腐
- 4 今日はどの猪口を選ばむ温め酒
- 5 秋耕の影のびにのび夕日落つ
- 6 五箇山の縄もて縛る新豆腐
- 7 海峡の町沁みわたる夜の霧笛
- 8 天平の仏の笑みや菊日和
- 9 墓帰り最後は走る枯野道
- 10 暮れゆきて枯野に遠き山家の灯

## \*12.なつき

- 1 靴紐を結び直せり初みくじ
- 2 中洲なる花菜明かりに鳥あそぶ
- 3 歩き初む児と蝶渡る太鼓橋
- 4 お迎へのママへと土筆一握り
- 5 水たまり畠に広がる穀雨かな
- 6 護符焚いて新樹の杜をけぶらしぬ
- 7 万縁やコロナ禍なれど深呼吸
- 8 星空の下にピザ窯避暑の庭
- 9 西日中巨大迷路を脱出す
- 10 庭木々にイルミネーションクリスマス

## \*13.三刀

- 1 竹林の穂先を染めて寒夕焼
- 2 うぐいすの声の間近に耕しぬ
- 3 大干潟真白に光る群れ千鳥
- 4 鯉幟わが里山の天辺に
- 5 一郷の端から端へ杜鵑
- 6 休み田の吾が丈超ゆる草を刈る
- 7 引き売りの喇叭の音や秋深む
- 8 金風に乗りて海へと千切れ雲
- 9 作業着に焚火の匂いつけ戻る
- 10 子狸の眠る小春の休耕田

## \*14.むべ

- 1 蝋の間遠となりぬ湯屋の窓
- 2 狂ひなき研ぎ師の手元秋の水
- 3 ひとり寝や夢に夫訪ふ秋の夜
- 4 金色の芒の海に呑まれけり
- 5 杣道のしるべとなりし鳥瓜
- 6 帰る友釣瓶落しの影法師
- 7 身に入むや戦火に耐へし礼拝堂
- 8 紅絹色の爆ぜんと孕む檀の実
- 9 茶の花やいにしへ偲ぶ館跡
- 10 冬満月地球の影の仄かなり

## \*15.なおこ

- 1 若楓揺れて水面に触れにけり
- 2 奏で初む待春の川見て飽きず
- 3 志新たに開く初日記
- 4 左義長の炎天まであがれかし
- 5 紅葉濃し大觀の絵を想ひけり
- 6 雛飾る座卓は隅に追いやられ
- 7 茗荷の子縦に横にと微塵切り
- 8 ルノアールの女の瞳暖し
- 9 耳あてて水琴窟の春を聞く
- 10 玉の日を吸つて膨らむ大手鞠

## \*16.小袖

- 1 吹き渡る松風涼し廃寺跡
- 2 ランプの灯映す窓辺の濃紫陽花
- 3 雨零抱きたるままに芙蓉閉づ
- 4 ほととぎすけふは高音に真昼時
- 5 花栗のにほひに咽る能勢路かな
- 6 コスモスに次の風待つ楽しさよ
- 7 前をゆく祇園舞妓の日傘かな
- 8 湯たんぽや昭和の薄き敷布団
- 9 蕎麦の花いよいよ白し夕まぐれ
- 10 鳴き砂の鳴かずに乾く冬の浜

## \*17.はく子

- 1 孫の嫁加はる一家初写真
- 2 子らの声届く高階日脚伸ぶ
- 3 ほろほろと樹より零れて寒雀
- 4 春うららポンポン船の小気味良く
- 5 園児らの植えて満開チューリップ
- 6 島と島つなぐ大橋五月晴
- 7 どんぐりの釣合ひよろしやじろべえ
- 8 晩学の一人の夜長楽しめり
- 9 竹かごに野の花挿して卓涼し
- 10 十五夜の遊ぶ雲さへ無かりけり

## \*18.菜々

- 1 時なしの鐘の余韻に年惜しむ
- 2 初座敷書院障子に松の影
- 3 半日を寄席に笑ふて骨正月
- 4 校訓は質実剛健梅真白
- 5 サイン帳互ひに記し卒業す
- 6 馬場うらら騎手の黄帽子赤帽子
- 7 あぢさゐ園課外授業の声弾む
- 8 コロナ禍の事も告げつつ墓洗ふ
- 9 紅葉もゆ千歳の古刹埋め尽くし
- 10 読みたい本読める幸せ文化の日

## \*19.うつぎ

- 1 コンバイン去りて刈田の匂ひけり
- 2 竹叢を丸く組伏せ梅雨滂沱
- 3 出水禍に消ゆ思ひ出の湯宿かな
- 4 胸張りてモデル歩きや羽抜鶏
- 5 肥を得るための驢馬てふ園小春
- 6 手に掬ふ能勢の湧水新樹光
- 7 風五月セーラー服の一団に
- 8 晩酌は薩摩白波目刺焼く
- 9 山祇に落とす賽銭つくつくし
- 10 繼目なき松の柾目の廊涼し

## \*20.董雨

- 1 初旅は日本海の蟹料理
- 2 初生りの胡瓜根性曲りをり
- 3 満作や日差し溢るる中庭に
- 4 舶ひ綱張りては弛む春の波
- 5 百千鳥声の一つに聞き覚え
- 6 紅葉山射抜き疾駆すハイウェイ
- 7 山紅葉なだるる谿の深さかな
- 8 紅葉谿埋め尽くしたる楓かな
- 9 燐え盛る紅葉の並木通りぬく
- 10 一塵もなき参道の寒さかな

## \*21.わかば

- 1 枝先に寄り添ふふくら雀かな
- 2 絵筆持つ窓辺の机日脚伸ぶ
- 3 海に向く砲台の跡かけろへる
- 4 春塵や並ぶ宮居の道具市
- 5 山腹へ展ぐ棚田や青田道
- 6 遠会釈日傘を上げて応ずなり
- 7 林泉の風のさざなみ秋の声
- 8 山巒を撫でゆく霧の速さかな
- 9 天陥の城址は雲に山粧ふ
- 10 対峙する白き櫓や菊日和

## \*22.ひのと

- 1 玉串の葉擦れ涼しき地鎮祭
- 2 草刈りて大の字に寝るなぞへかな
- 3 不動なる射手のまなじり夏袴
- 4 調律の音色漏れくる夕焼かな
- 5 撃ち下ろす面の一聲堂涼し
- 6 魚臭き釣り銭もらふ土用かな
- 7 折り鶴に息吹き込むや沖縄忌
- 8 合掌を解いて涼しき涙かな
- 9 風鈴や父の棺に釘打てば
- 10 骨壺にほのかな温み沙羅の花

## \*23.愛正

- 1 梅の香の袋小路の土蔵塀
- 2 揚土を雀啄む春田かな
- 3 梅咲くや疎林に古りし一軒家
- 4 能舞台絶え間なく舞ふ花吹雪
- 5 独活香る嫗の背負ふ籠の中
- 6 水郷に流る舟歌鳥囀り
- 7 風花や鬱黒き放牧馬
- 8 露天湯の湯気にこもりし声臘
- 9 係留の小舟に絡む糸柳
- 10 敷石の窪みにひかる薄氷

## \*24.そうけい

- 1 ふらここの高みに海の風匂ふ
- 2 湧き水を手杓で掬ふ春の苑
- 3 芝焼や煙がくれに火の走る
- 4 アイロンの折り目涼しきユニホーム
- 5 館出でて一斉にさす日傘かな
- 6 能登島の入り江に映る秋灯
- 7 行く秋や梵鐘を撞く一人旅
- 8 冬ざるる能登の岬の空き旅館
- 9 待ち人の裏木戸に踏む霜柱
- 10 推敲の刻を重ねる膝毛布

## \*25.よし子

- 新緑の山近づけよ遠眼鏡
- 端つこの破れし寺宝の涅槃会図
- 露地奥に古書肆の点る夜長かな
- 稜線の影くっきりと冬茜
- 枯蓮自信の持てぬ骨密度
- 手に取りてしみじみ大き朴落葉
- ハロウィンのかぼちゃ泣き顔笑い顔
- 妙見山の名水で炊く今年米
- せせらぎに秋の声きく初音川
- 短冊に五歳の願ひ星祭

## \*26.もとこ

- ひつち田の果てなき向ふ高嶺晴
- 重箱の隅拭き上ぐる六日かな
- 初旅の案内やはらか伊勢ことば
- マルクスも紙魚の住処となりにけり
- かき氷をんなの愚痴に山崩れ
- 江戸切子酒に色差す夜の秋
- 胸厚き一木如来秋の里
- 飛ぶ星に願ふ間もなき島泊り
- 庭の柚子削ぎて一碗香を愛づる
- コロナなどどこ吹く風と日向猫

## \*27.やよい

- 玻璃戸拭く小春の雲に触れもして
- 湯けむりの匂ふ湯の町冬うらら
- 日脚伸ぶラジオ窓辺に針仕事
- 主留守の犬小屋統ぶる寒すずめ
- ショーウィンドーに髪整える春の風
- 黒潮の風に瘦せゆく日刺かな
- 追熟の青梅かいほる厨かな
- 道を問ふ人見当たらず立葵
- 葉裏なる空蝉背より雨しずく
- 石ひとつケルンに重ね縦走す

## \*28.よう子

- 暖かや母の瞳に児ら遊ぶ
- 明智寺京射干の紅一花
- 口レンソの通りし道や山卯木
- 暫くは草の匂ひす虫の手
- 煙草屋の軒の燕と雨宿り
- 見回りの神官腰に蚊遣り香
- あとで効く母の小言や唐辛子
- 夕散歩木の実と分かる足裏かな
- 麻雀もカードも知らず葛湯吹く
- 改易の天守なき濠浮寝鳥

## \*29.みづき

- 夢ひとつ心に秘めて初詣
- 大空に観覧車置き日脚伸ぶ
- 下萌や少女のリュック鈴鳴りぬ
- 春埃夫の残せし地球儀に
- 近江路や店の生け簀に梅雨鯰
- 小流れの暮れて虫の夜となりぬ
- 暮れてなほ畳に残る残暑かな
- 小春日やピエロの招くカフェテラス
- 夫の書庫静かな匂い秋深む
- 園児らの無垢の瞳や聖夜劇

## \*30.豊実

- 長竿を振り出す池塘行々子
- 咲き満ちて刈るには惜しき姫女苑
- 手の甲にペタリ冷たし雨蛙
- 受付のアクリル板や梅雨寒し
- ワイヤーの掃く水重き驟雨かな
- 一坪の畠の恵みや薩摩諸
- 納竿を見据えしやうに鰯の飛ぶ
- 太刀魚の釣られて光る夕の波止
- コロナ禍に幕間の咳もはばかりぬ
- 笠原を揺らすは熊か木枯しか

## \*31.明日香

- うららかやパドックの馬よそ見して
- 遠目にも桜とわかる四囲の山
- 新緑や万古不易の石舞台
- まほろばを取り囲みたる青嶺かな
- 大和富士のみに日矢さす梅雨晴間
- 山の辺に辿るいにしへ法師蝉
- 二上山を浮き上がりて霧の海
- 身の内に命あふるる冬木の芽
- 袖合はす山のあひより冬の靄
- 福耳の人頭石や冬ぬくし

## \*32.更紗

- 参籠の一歩一歩に淑氣満つ
- ペン先に滲むインクや春愁ひ
- モノクロの映画懐かし梅雨籠
- 山肌をなほ濃くしたる縁雨かな
- 湧き出づる清水や銀紙揉むごとく
- 日焼けして歯並びの良き笑顔かな
- 手をほどき駆けだす吾子やねこじやらし
- 水みくじ浮かべし御池澄めにけり
- 盆の月照らす実家に母ひとり
- 月冴ゆる闇に波音ばかりなり